

ミス・スターズ

第一話

～ 渴愛のインセスト ～

私の名前はユリナ
隣は姉のローザ

私達はこの町の
小さな教会の
シスター

幸い街の人達は
皆よくしてくださって

大変だけど
穏やかで
充実した日々を
送っています

両親亡き今は
姉妹三人で教会を
なんとか切り盛り
しています

そんな
こんなで
今日も無事
一日を終える事が
できました

ユリーナ
今日も
お疲れ様♥

これだけ大きな胸だと
肩こりも大変ね♥

ふーっ
ポン
ポン

やっ♥
もう姉さんは
いつも悪ふざけが
すぎますよ!

お
お願いします！
力を貸して
ください！

こ子供が悪魔に
憑かれてしまって…

聖職者のお力で
なんとか救っては
頂けないでしょうか…

悪魔憑き？！

わ私達姉妹が
聖職者になって
こんな事は一度も
なかったのに…！

専門家ではない
私達では対処
できるかどうか…

私は一度
悪魔祓いの現場で
助手をした事が
あります

力不足では
ありませんが…
私が力を
貸しましょう！

でも…
憑いた悪魔によっては
子供の体力じゃ
最悪一日もつか
どうか

教会に申請して
悪魔祓いの
到着を待つて…
それじゃ絶対に
手遅れになる…

こんな時に手を
差し伸べるのが
聖職者の
仕事でしょう！

この先です！
聖職者様！

ここって…
こんな
何もない所に
子供なんて…

ちよつと！
こんな時に
悪ふざけなんて…

あなた…
こんな所に
誘い出して
一体なんの
つもり…？

嫌な予感…
それに
この鼻を突く
臭いは…

ククク…
聖職者トも
あるウ者ガ
魔の存在ニ
気づかナイとは…

まさか…こいつが
悪魔そのもの
だなんて…！

私かユリナが狙い
だったつて事…！？

教会ハもツト
俺タチ悪魔ニ
警戒するベキ
だなア？

だったら…！



やるなら
先手必勝!



教会支給の
守護石に
力を込めて…!



主よ…!
魔を清め祓い
弱き我らを
護りたまえ…!

くわっくわっくわっ



聖職者になってから
祈りの力をずっと
込め続けた
この守護石の力を
今解き放つ!

ほあっ

カッ

これがダメなら
どうにでもなれよ!

グワアアアアッ

シュー

やめテ…!

やめてください！
姉さん…!

ユ
ユリナ…!?

クク…っ
想い人の姿に
思わず
手を止めたな…

お前の心の内
完全に読み取ったぞ

そんな…
守護石の力が
まるで
効いていない…!?

お前の願望
叶えてやっても
いいぞ？

ななにを…
ふざけないで
悪魔め…っ!

聖職者で
ありながら
実の妹に欲情する
変態の願いをなあ!

欲情なんて…っ
するわけ
ないでしょ…!



は…ああっ♡
やめろ…っ



豊かな胸だ…
ククッ
動悸が早いぞ？



そうか？
ならば
確かめてやろう



どうして…っ
胸を揉まれた
くらいでこんな
感じて…っ



欲望に素直に
想い人の愛撫で
好きさだけ
よがるがいい

く…
ふうっ



無理に抵抗
するな

ひあああ♡
ちくびら♡

ふふ…
身体は既に
受け入れたがって
いるぞ？
愛する妹の愛撫は
さぞ気持ち
いいだろう？



これは…っ
ただ驚いた
だけ…っ

あ♡
ほお？

この私が
悪魔の
愛撫で
感じるはずが…
んんん

両乳首とも
コリコリだ♡

感じていない
と言いながら
いい反応だな



こちらも 聖職者は
こんなになっても
強情だな

そ
そ
はっ

指でっ♥
奥までコロコロ
擦られてっ♥

ああ…
相手は
悪魔だって
わかって
いるのに…

これ以上は…っ
抑えきれないっ♥

素直に
受け入れる
欲望を
幸福を♥

ユリナの声で
指でこんな事
されたら…っ♥

発情しちゃうに
決まってる
わよおおっ♥

まあっ

はっ





そうやって
全てから眼を逸らし
己の心を
押し殺すのか？

それがお前の
幸福とでも？
いい加減
素直になれ



ココも
もう勃起して
いるぞ？



ほおら



よく
考える



快楽に属し
私と契約する事で
お前の歪んだ愛を
成就させるのだ

あ悪魔の甘言に
惑わされるほど…
んひっ♡

私…は…あ♡
浅はかじゃ
ない…んはあ♡

そらすれば

ほ♡

あ♡

「本物の妹」
さえも
お前の思うが
ままだ

あの
清らかで
美しい妹を
お前自身の手で
欲望まかせに

滅茶苦茶に
犯し汚し壊す事が
出来る♡

んんんんん

そんな事っ♡
私は…あつ
あの子だけはっ♡
私が守る…ううっ♡
私の手で穢す
なんて…
ありえないっ♡

んんんんん

口でそんな事を
言っても
心は正直なもの

妹を犯せると
聞いた途端
心が喜びに
打ち震えたぞ♡



トシナの髪はいつか
いかに伸びるの♡♡



あにやあつ♡
もあつ♡
やめてえつ♡



なつちやう
からああつ♡

あゝ
えええ♡

さからえ
なくつ♡

あゝあゝ



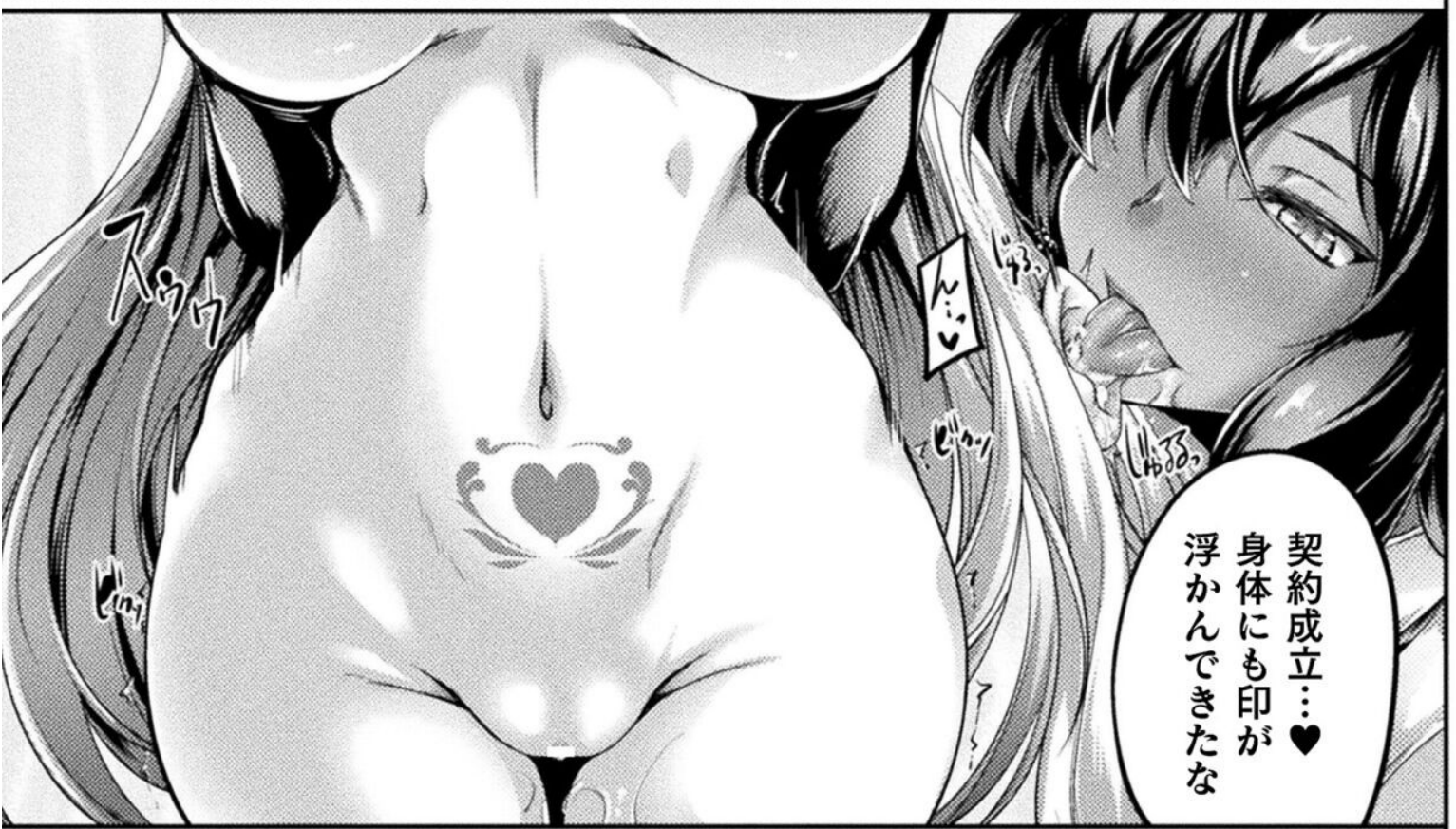
ユリナに
イカされて…♥
悪魔を受け入れ
ちゃった…ああ♥

はっはっ
はっはっ



おっ
おっ

いつ…
ちゃった…ああ♥



契約成立…♥
身体にも印が
浮かんできたな



私の力を
お前に与えよう
さあ
受け入れる…♥

はああ…♥
ごめんなさい…♥
ユリナあ…♥

はっ

はっ

はっ

姉さん
どうか…

どうか無事でいで
ください…

主よ
どうか姉さんを
お贖ってください…

ね姉さん！
無事でしたか！？

ただいまユリナ
会いたかったわ♡

ち違う…
姉さんじゃない

私…
本当に心配で…

何かあったんじや
ないか…って…

姿は姉さんなのに
魔の気配がする…！

どうしたの
ユリナ？
悪魔を祓って
クタクタの
お姉ちゃんを
癒やしてよお

私の
信仰の力… します…！
お願い

この祈りが
神に届き
姉さんに憑いた
悪魔を祓って…！

姉さんと全く
同じ姿…

まさか
悪魔に…!?

主よ…！

どうか…！
あの者を
清めたまえ…！

あらあら…

目くらましに
しては強烈ね♥



き消え…!?



あなた
貴女の信仰って
その程度か？
お姉ちゃん
がっかりだわ♡

このまま
殺しちゃうのは
簡単だけどお
それじゃ
つまらない
でしょう？



朝まで攻めに
耐えきれたら
姉も貴女も
見逃してあげる♡



だから…
貴女にチャンス
あげる♡

なんてカ…っ
押さえつけられて
抵抗できない…!



んふ…♡
初々しい反応♡

なのに…
圧倒的優位にも
拘らずどうして
こんな事…
でもどのみち
従わなければ
姉さんも私も
こいつに…



朝までに
貴女の理性を
剥ぎ取って
あげるわ♥



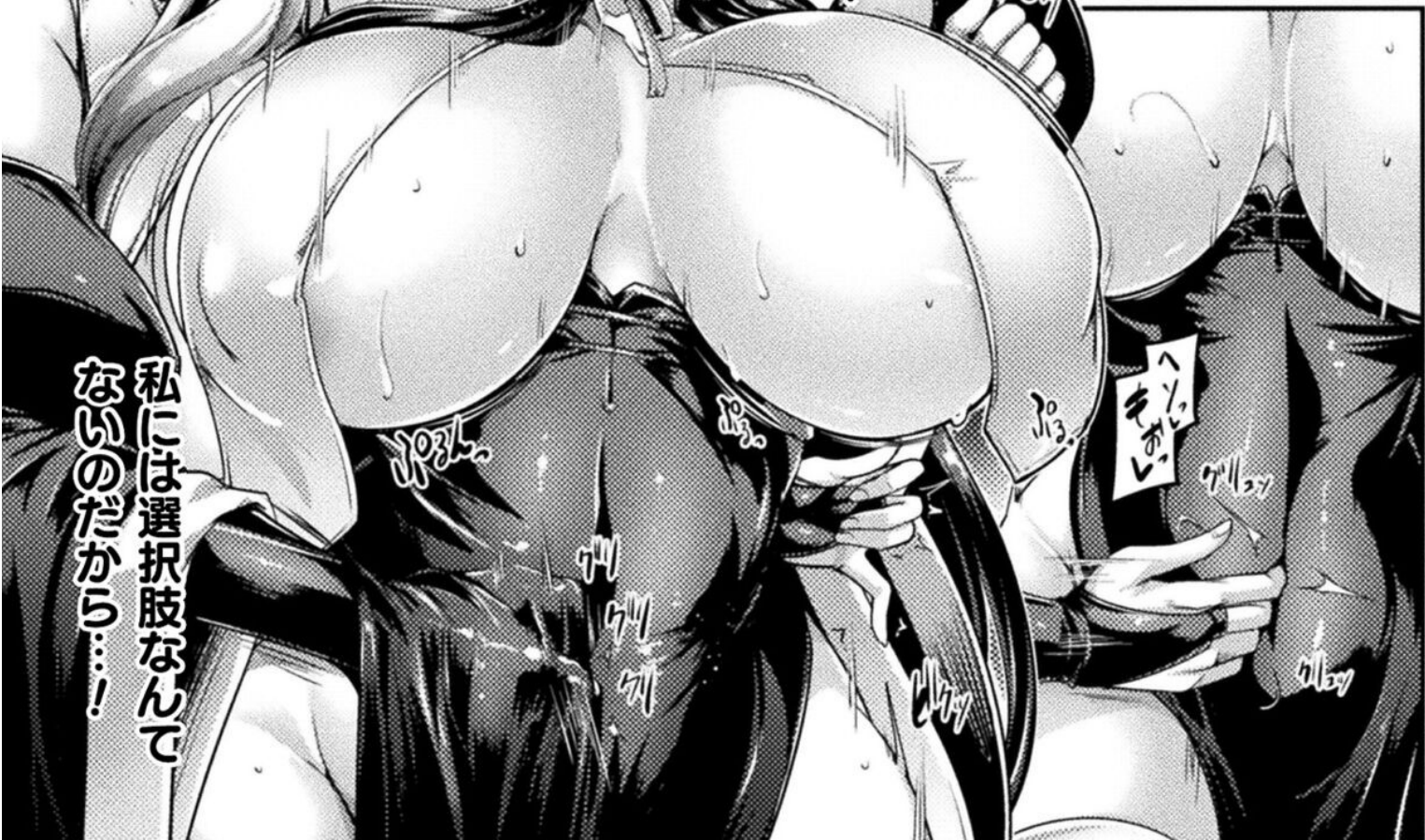
はあ…♥
おい…♥
美味し…♥

く…っ



耳にヘソに腋…
少し変な気分になるけど…
この程度なら耐えられる…!!

腋…



私には選択肢なんて
ないのだから…!!

へソ…



悪魔に
何をされても…っ
何も感じたり
しません…っ

わ私は…
はあ…っ
こんな事で



そんな事…
絶対に
ありません

私の信仰は
その程度では…
はあん♡



うふふっ♡
その目つき
ゾクゾク
しちゃう♡

その目が
情欲に染まるのが
今から楽しみね♡



こんな下品で
大きい陥没乳首を
ブラ下げて♡

全然説得力が
ないわね♡

んあ♡



ほ♡

ん♡



それで朝まで
もつのかしら？

ん♡



たったこれだけで
こんな声が
出ちゃう…

あ♡

ほ♡



ちくび♡
そんな
風にい…♡

ん♡

ほ♡

ほ♡



あらあ？
さっきまでの
強がった態度は
どこへ行ったの
かしら？

ふっ
ふっ
ふっ

ふっ
ふっ
ふっ

ふっ

はっ

はっ

はっ



それじゃ
お次は…♡

うふふ♡
いい具合に
蕩けちゃって♡



口では
どう言っても
身体は正直♡

コリッコリに
勃起したエッチな
乳首とご対面♡

あーっ

この可愛い蕾を
苛めちゃおう
かしら♥

そこは
不浄の穴…っ
姉の身体で
触れないで…



えい♥

ゆ指が…♥
お尻の穴を
押し抜けてえ…♥



肛門がきゅっと
指に吸い付いて
くる♥

本当に
初めて
かしら？





もう腸内も
トロトロで…♡



排泄^だするための
穴なのに
こんなにエッチな
反応…♡

聖職者
失格ね♡



勝手な事
ばかり…っ

今は身体が
敏感になっている…
だけです…っ♡



じゃあ
こうすれば…♡
えいっ♡

まっあっ♡



ふふ♥
安心するのは
少し早いわ♥

今までののは
いわば
準備運動♥

この子達を
受け入れても
壊れてしまわない
ようにね♥



すっかり
出来上がっちゃって
もうこんな
ほぐれちゃった♥



指…抜いて…
終わった…の？



ひっ触手…っ
気持ち悪いっ



ごりごりの
表面で肛門
ズリズリ擦られて
しまったらあ…♥

お尻の穴
広げられて…っ
腸内が無防備に
されてる…っ

この触手が
お尻の中に
入ってきたら…っ

さあ
触手を通じて
私と繋が
ましよう♡
聖職者には
絶対許されない
不浄の穴での
近親相姦
触手セックス♡

やあ
ああ

あゝ

がががが

がががが

んああああ♡
触手♡

入ってくる...♡



悪魔に
イカされた♡

絶頂もたはら...♡



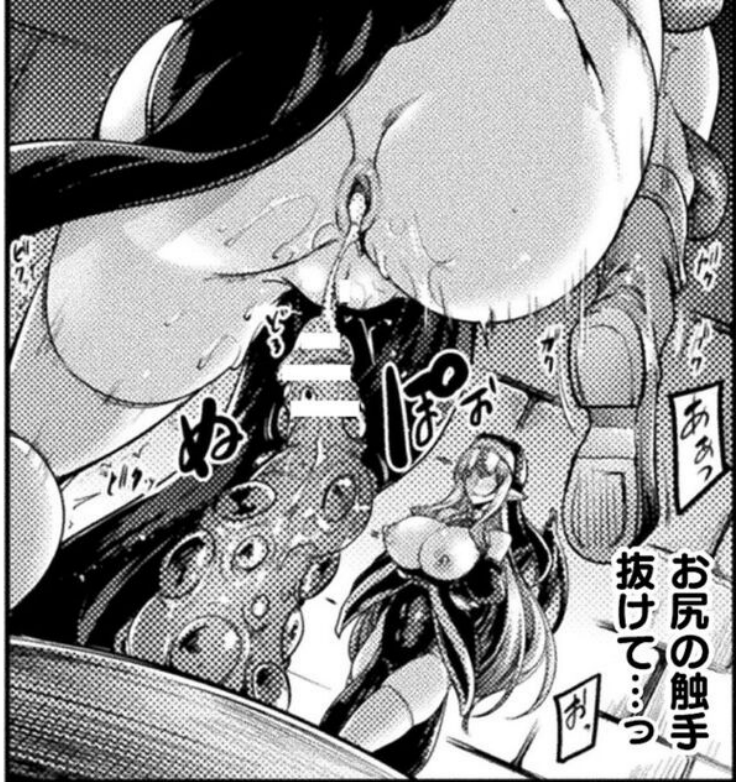
今度は一気に
引き抜かれ♡

んああ



狭い穴に無理やり
割り込んでくる
みたい...♡
奥に...♡

苦し



お尻の触手
抜けて…っ



なにに…!?
触手に吊り上げ
られて…

身体が…っ
持ち上げ
られてるっ!?



身体
落とされたっっ
一気に
腸奥までええっ

おほおほ

ちゅん



いい眺め♥
貴女の肛門に
醜い触手が入りして
いるのがよく見える♥

貴女の腸内に
入っている感覚が
私にも伝わってくる♥

ケツ穴を目一杯
拡げて触手を
呑み込んで…♥

み見ないでっ♥
お尻の穴で触手を
呑み込んだ私の
無様な姿…あつ♥



そんな事ないわ♥
触手に煽られて
感じながらも
強情を張っている
素敵な姿よ♥

ご褒美
あげたく
なっちゃろう♥

お腹の中で
触手が暴れて
いるの……っ

あゝはぁあゝ

まだ我慢
しているの？
いい加減
快樂に負けて…

素直に
なりなさいっ♡

前の穴まで♡
深い所に
指いつっ♡

前も後ろも
滅茶苦茶に
されて……っ♡

気持ち良すぎて
体勢を保つて
いられない……っ

快樂なんか
負けては…
いけないの……っ♡





いけない…っ♡

悪魔の快楽などに
屈しては…ああっ♡



皆が注目する
講壇の上で
自ら腰を振って
一心不乱にケツ穴
ほじくって♡

変態の貴女は
ここいっぱい
信者達に見られながら
していると思うと
興奮するでしょう？

こんな行為を
衆目に晒しながら…

そんなの…っ♡



あはっ♡
今肛門がきゅっと
縮まったわよ♡

触手ちゃんぽを
啜え込むのを
見られる想像をして
感じちゃった
のかしら♡

あはっ♡
あーっ♡
あーっ♡

あはっ♡
あーっ♡
あーっ♡



もう快楽に負けて楽になりましょう♡

触手も肛門と腸奥にこりこり擦れて♡

貴女のケツ穴を犯す快楽が流れ込んでくる♡

いいわよ♡ それじゃあ腸内に熱いの流し込んであげる♡



返事もできなくなっちゃってる♡



悪魔に無理矢理お尻の穴で触手性交されてっ♡



んんんんん♡

んんんん♡

んんん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡



大きいの
キチャウ
うんうん♡

お♡
うん♡

うん♡
うん♡
うん♡

お♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡



わたしは…
快楽に
なんか…あ♥

ぜったいに…♥
屈したり
しまひえん…♥

ケツ穴をあれだけ
ブチ犯されて
身体は屈しても
心は折りきれない
なんて…
もっとじっくり
犯し汚し
壊して
私のものに
してあげちゃう
からあ♥

To be continued.